

氏名	高野 悟史
学位の種類	博士（社会福祉学）
学位記番号	甲第 91 号
学位記授与の日付	2026 年 3 月 13 日
学位授与の要件	学位規程第 3 条第 4 項該当
学位論文題目	脱施設化に向けた関係機関が集まる有機的な協働組織のあり方：精神科長期入院に対する効果的な地域移行・地域定着支援プログラムの実施度向上に関連する場の機能
論文審査委員	審査委員長 田村真広 審査委員 贄川信幸 審査委員 鶴岡浩樹 審査委員 森千佐子 審査委員 梶原洋生

題目：脱施設化に向けた関係機関が集まる有機的な協働組織のあり方：精神科長期入院に対する効果的な地域移行・地域定着支援プログラムの実施度向上に関連する場の機能

The Nature of External Organic Inter-organizational Collaborative Platforms for Deinstitutionalization: Functions Associated with Enhancing Implementation Fidelity of Community Transition and Integration Support Programs for Long-term Psychiatric Hospitalization

氏名：高野 悟史 Satoshi Takano

**論文要旨 目的：**精神科病院長期入院者の地域移行・地域定着支援プログラムの効果的援助要素の実施度を向上させるために、支援関係者等が所属組織の外部で有機的に協働する組織のあり方

とその関連を明らかにする。**方法：**(1) プログラムの効果的援助要素の実施度を記述するため、試行評価調査を行った。(2) 効果的援助要素の実施度と外部組織のあり方の関連を明らかにするため、全国

の精神科病院を対象に自記式調査を行った。調査票は、地域移行・地域定着の課題について所属機関を超えて検討する場(外部組織)の有無、場の性質、場の活動、効果的援助要素の実施度などを問う項目で構成された。

**結果：**(1) 試行評価調査では、全体的な効果的援助要素の実施度が高いチームにおいても、ピアサポート導入、地域連携パス作成・活用、地域全体での目標・理念共有という組織間の合意が必要な援助要素の実施度が低いことが明らかとなった。(2) 所在自治体に外部組織がある病院は、外部組織がない病院に比べて援助要素全体の実施度が有意に高かった。外部組織の「戦略的志向性」因子と活動因子が、プログラムの組織と導入時に関する効果的援助要素の実施度と有意な関連を示した。また、外部組織の「戦略的志向性」と「グランドデザイン」因子は、回答者が実感する長期入院の課題解決の進展と有意に関連した。

**考察：**外部組織が持つべき機能が、組織間の体制や意識に関連することで、プログラム実施度を高めて制度の有効性を引き出すことにつながり、地域移行を進めていた可能性が示された。そして、精神科長期入院の複雑な課題に対するプログラム実施に必要なシステムの変革のために、マクロ(システム)とミクロ(実践)をつなぐメゾレベルの外部組織が重要であることが示唆された。外部組織を地域全体で意図的に構築・育成することが、脱施設化へ向けた「協働ガバナンス」として日本の共生社会の実現へ寄与することが期待される。

Title: The Nature of External Organic Inter-organizational Collaborative Platforms for Deinstitutionalization: Functions Associated with Enhancing Implementation Fidelity of Community Transition and Integration Support Programs for Long-term Psychiatric Hospitalization

Name: Satoshi Takano

#### Abstract

**Objective:** This study aims to clarify the nature of external organizations where support stakeholders organically collaborate, and the association of such organizations with improving the implementation of "critical components" within the "Community Transition and Settlement Support Program for Long-Stay People with Mental Illnesses."

**Methods:** (1) A pilot evaluation was conducted to describe the implementation level of the program's "critical components." (2) To clarify the relationship between the implementation of "critical components" and the nature of external organizations, a self-administered questionnaire survey was conducted nationwide targeting psychiatric hospitals. The questionnaire consisted of items asking about the presence or absence of external organizations (forums for discussing community transition and integration issues beyond institutional boundaries), the properties of these forums, their activities, and the implementation level of "critical components."

**Results:** (1) The pilot evaluation revealed that even in teams with high overall implementation of "critical components," the implementation was low for "critical components" requiring inter-organizational consensus, such as introducing peer support, creating and utilizing Integrated Care Pathways, and sharing community-wide goals and philosophies. (2) Hospitals in municipalities with external organizations had a significantly higher implementation rate of all components compared to hospitals without them. Among the properties of external organizations, the "Strategy Orientation" factor and the activity factor showed significant associations with the implementation of "critical components" related to program organization and introduction. Furthermore, the "Strategy Orientation" factor of the organizations and the "Grand Design" factor of their activities were significantly correlated with the respondents' perceived progress in resolving the challenges of long-term hospitalization.

**Discussion:** The findings suggest that the functions of external organizations are associated with inter-organizational structures and shared awareness, thereby enhancing program implementation fidelity and maximizing the effectiveness of the system to potentially advance community transition. This highlights the critical importance of meso-level external organizations, which act as catalysts connecting the macro (system) and micro (practice) levels, in driving the systemic change required to implement programs addressing the complex challenges of long-term psychiatric hospitalization. Therefore, intentionally building and nurturing these organizations across the community is expected to foster "Collaborative Governance" for deinstitutionalization and contribute to the realization of an inclusive society in Japan.

## 【審査結果の要旨】

### 1 審査委員の構成と審査の経過

博士論文審査は、日本社会事業大学大学院学則、同学位規程及び同博士後期課程修了細則に基づき、第3次予備審査及び最終審査から成り立っている。審査委員は、社会福祉学研究科委員会にて選任された大学院担当の専任教員5名が担当した。5名の氏名と専門分野は以下のとおりである。

審査委員長	田村 真広	教育福祉、福祉教育、福祉科学習指導、カリキュラム史
審査委員	贄川 信幸	精神保健福祉、福祉プログラム開発・改善と評価
審査委員	鶴岡 浩樹	地域医療、在宅医療、EBM、介護ロボット、多職種連携
審査委員	森 千佐子	高齢者支援、介護者支援、多職種連携、介護福祉教育
審査委員	梶原 洋生	福祉法学、司法福祉

2025年10月31日までに提出された第3次予備審査博士論文について、審査委員がそれぞれ精読し、11月29日の公開口述試験を行った。2026年2月19日の社会福祉学研究科委員会にて審査委員会の結果報告を受け、博士（社会福祉学）の学位を授与するにふさわしいとの提案がなされ、了承を得た。

本学学長は、これらの手続きを経て、2026年3月13日に「博士(社会福祉学)」の学位を与えることとした。

### 2 博士論文の評価

#### <総合評価>

日本の精神科病院における長期入院者の問題は、人権の観点から国際的に批判されてきた。本論文は、長期入院者の地域移行に関わる病院外部の有機的な協働組織に焦点を当てて、その機能的有用性を明らかにした。

先行研究を精査し、退院支援の制度化や諸外国における脱施設化の段階を整理した上で、日本における課題及びプログラムモデルの必要性を示した。また、高齢者医療や他の障害分野、児童福祉における脱施設化について整理し、精神科領域の脱施設化との共通課題を提示した点は意義深い。

脱施設化における世界的な動向を視野に収めつつ、日本において効果的なプログラムの実施度が高まらない理由を分析し、先行して開発された効果モデルの試行評価調査と、精神科病院の退院支援担当者へのアンケート調査をふまえて、介入による結果の比較や効果的援助要素との関連を導きだし、プログラムの実施度を高めることが期待できる「外部の有機的な協働組織（検討する場）」の構造と機能を可視化した。倫理的配慮をふまえた適切な研究方法を駆使して、外形的にとらえにくい対象（検討する場）を緻密な論理構成をもって考察し、独創的で説得力のある結論を導き出している。

効果モデルの試行評価調査に基づき、効果的援助要素の課題を明らかにした上で、精神科病院の退院支援担当者を対象としたアンケート調査を行った。全国の精神科病院から500病院を無作為抽出に

より適切に対象を選定した。回収率が18%（90件）にとどまったことをもって本研究の限界と指摘することは容易であるが、回答を寄せた病院は全国の保健福祉資料との比較で5年以上の長期入院者を多く抱える病院であったことは補足するに値する。

調査データについては、試行的介入による結果の比較や、効果的援助要素得点の影響要因などを多角的に分析しており、因子名も熟考した上で結果が示されている。統計学的に様々な検定を使って検証し、レーダーチャート図で分かりやすく提示されている。「場」の機能と病院における支援の質との関連について、相関関係や因果関係の証明が不十分であると、本研究の限界が指摘される可能性はあるが、十分な仮説提起を果たせた点において本研究の成果は揺るぎがない。

本研究では、有機的な協働組織が保つべき機能として、メゾレベルの架け橋としての機能を想定している。精神科長期入院者の退院促進・地域移行支援の暫定版プログラムにおける実践の壁を特定し、外部の有機的な協働組織の性質（戦略的志向性、互惠的協働性、心理的安定性）と、それらの果たすべき役割（グラウンドデザイン、ソーシャルアクション）を析出した。精神科長期入院者の地域移行及び地域定着を促す協働組織の機能をソーシャルキャピタル、学習する組織、インテグラル理論、ティール組織に照らして論じた点は、ユニークさを際立てている。多職種連携による地域移行・地域定着への鍵を握るのは、官僚制のような機械的システムと対置できる有機的な協働組織であるとした上で、メゾレベルにおける普遍的な協働ガバナンスに迫り得た点は卓越している。

日本の精神科病院からの地域移行・地域定着の課題の特異性を踏まえて、効果的なプログラムの実施度向上に寄与しうる行政・精神科病院および障害福祉事業所が関係する協働組織のあり方を明らかにした点において、本研究はオリジナリティを有している。加えて、精神保健福祉領域を超えた福祉施設における脱施設化という実践的な課題意識を背景に、国内外の研究・実践動向を幅広く見渡しており、領域を超えた展開を示唆している点も興味深い。外部の有機的な協働組織「検討する場」の普及は、地域包括ケアシステムにおける「協議の場」と符合していく可能性があり、その普遍的かつ潜在的価値からも理論研究と実践研究の双方の進展が期待される。人権にかかわる問題の解決につながる知見をもたらした点において本論文の社会的意義は高いと評価できる。

### 3 最終試験の評価

審査意見をふまえて主題と副題を入れ替えたことにより、本論文の社会福祉学としての学術的貢献、実践的・政策的貢献はより明確となった。審査委員会は全員一致で高野悟史氏に博士（社会福祉学）学位を授与すべきと評価した。